



Title	大阪市赤十字奉仕団の総括と衛生部の活動について
Author(s)	池田, 悦郎
Citation	大阪公衆衛生. 1964, 13, p. 25-25
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84630
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

大阪市赤十字奉仕団の総括と 衛生部の活動について

大阪市赤十字奉仕団が昭和24年10月全区に結成され、現在すでに14年の年月を経たのでありますが、この間団員の一致団結により、着々その組織を広めつゝ、博愛精神により日本赤十字社の行なう各種事業に協力するとともに、社会奉仕の理念に基づき、平時においては地域社会の福祉増進に協力する外、非常災害時においては区災害救助隊の協力部として献身的な救助活動を行なう等、全国にその類をみない誇るべき組織となった。大阪市赤十字奉仕団は現在22の各区団の下に、266連合、3002町団、50500班を有し、約77万9千世帯をようして、市域をほとんどもうらす大阪市唯一の市民組織の形態をなしている。各区奉仕団には総務部、社会福祉部、衛生奉仕部、災害奉仕部、婦人部の5部が設けられているが、平時においては衛生、清掃、保健業務を扱う衛生奉仕部の活動が、その主なものとなっている。大阪市内においては、市区行政を行うに際してこの市民組織をもつ赤十字奉仕団に協力を求めることが多く、現在15項目の行政事務について委託契約を行なって処理にあたってもらっている。その中でも保健衛生関係は特に多く、結核予防検診、生ワクチン及び一般予防接種、鼠族昆虫駆除、狂犬病予防事業等について、文書、ポスター等による周知宣伝あるいは受付事務に協力するなど活発な協力を受けているが、これら運動の推進をなすものは婦人部であって、特にこまめに足を使って徹底を要するこの種事業については、婦人部の献身的活動にまところ大なるものがある。また、現在奉仕団はし尿汲取券の取扱いの外、ゴミ処理におけるポリバケツの普及に協力する等、大都市における共通的な問題である、し尿、ゴミの終末処理に関係した業務にもたづさわっており、保健衛生行政の円滑な運営に預って力ある団体といっても過言ではない。今後大阪市としても区市行政の事務量の増加、輻輳化に伴ない市民サービスの面から、能率的な末端行政処理方法を工夫、検討しなければならないが、市民組織をもつ赤十字奉仕団に対して感謝しつつ、今後もその協力を願うものである。

(大阪市総務局区域係長 池田悦郎)